

令和6年度 学校評価シート(自己評価)

学校法人ひつじ幼稚園
第二ひつじ幼稚園

当園ではこの度、令和6年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。

また、それぞれの自己評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I . 園の教育目標

「心やさしく、いきいきと、体のびのび、たくましく」を目標に、学校教育法の「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の5領域の内容について、伸び伸びと自然に学べるように、きめ細やかな配慮と指導を行っています。そして、一人一人の子どもの持っている能力を引き出すことにつとめ、思いやりと創造性豊かな子どもになるように、明るく生き生きとした楽しい保育を目指します。

目指す子ども像

- 思いやりのある優しい子
- 挨拶ができる礼儀正しい子
- 丈夫で何でもよく食べ元気な子
- 少しのことにもくじけず頑張る子
- 創造性と表現力がのびのび豊かな子
- 良い悪いをはっきり判断し、正しく行動できる子
- 人の話をよく聞き、みんなの前で意思をはっきり言える子

II . 令和6年度の重点目標

- 少人数であることの利点を生かし、一人一人に寄り添った丁寧な保育を心掛ける
- 教職員間のコミュニケーションや園児の情報共有を密にし、連携をはかっていく
- 子どもの主体性を引き出せるような環境作り（物的・人的）に努める
- 感染症対策・衛生管理に気を付ける
- 食べ物に対して感謝の心や興味を養い、自発的に食べたいと思える環境づくりをする
- 日頃から保護者とのコミュニケーションを大事にし、家庭との連携をはかる
- 教職員としての自覚と資質向上につとめ、保護者から見て好感の持てる態度を心掛ける

III . 令和6年度の評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み内容	結果	結果の理由
1. 教育内容	・家庭と連携し一人一人に寄り添った丁寧な保育を心掛ける。	A	・それぞれの子どもの個性を理解し、温かく支援しようと努めている。家庭の様子と園での様子を照らし合わせながら、家庭へフィードバックしている。
	・行事ごとのねらいを理解し、導いていけるようにする。	A	・行事に関する絵本や普段の生活の中から導入を行うことで、自らやってみようとする意欲と主体性を持たせることができていた。
	・発達に合った無理のない保育計画を立て、子どもが主体的に活動できるように配慮する。	B	・個々の発達の様子に合わせ、無理のない進度で進めている。 ・個人に深く対応しすぎることで、他の子どもたちへの配慮が薄くならないように注意していきたい。
	・子どもたちの興味を引き出し主体的に関われるような環境を構成する。	B	・興味関心を持たせたり、活動のおもしろさを伝え、充実感や達成感を味わうことができるよう更に取り組みたい。
	・専門講師による指導に意欲的に取り組めるようにする。	B	・正課では子どもたちがマンネリ化しないように、やりたいと思えるような工夫ができるように講師と連携する。
	・絵本の読み聞かせを積極的に行い、子どもの心を育てると共に人の話を聞く姿勢を養う。	A	・本への興味を持たせるよう各クラスに置く絵本を入れ替えたり増やしたりした。 ・子ども自身が、自分から読み聞かせをするようにもなった。
2. 教職員体制の充実	・教職員間のコミュニケーションや情報共有を密にし、保育や職場環境の問題や課題を解決するよう努める。	A	・日々の職員打合せで、各クラスで気になっていることや園児の様子を共有した。また保育活動や仕事の進み具合を確認し、見通しを持った計画を一緒に立て、準備を十分に行った。
	・保護者からの連絡は確実に職員間で申し送りを徹底し、連絡ミスをなくす	A	・限りなくゼロにできるように更に徹底していきたい。年始からICTツールでの連絡ができるようにしたので、活用していきたい。

3. 教員としての資質向上	・外部の研修会へ積極的に参加し、資質向上に努める。学んだことは職員間で共有する。	C	・研修の機会にはなるべく参加していきたい。
	・子どもたちが楽しめる保育を行なえるよう向上心を持って研究に努め、良かったことは職員間で共有する。	A	・良いものは積極的に取り入れ保育に生かしている。他の職員やクラスの良い点も学びにしている。
	・教員としての自覚を持ち、行動や言葉使い、服装・身だしなみに注意する	B	・保育に支障のない範囲でヘアカラーや服装の制限をなくしたが、その分保育内容や言動には、今後も特に注意して行っていく。
4. 安全・衛生管理	・保育室やトイレ、園内を清潔に保ち、遊具等の定期的な安全点検をする	A	・降園後は清掃を念入りに行い、園児が触れる場所は除菌している。安全点検は点検票に基づき行っている
	・園児の体調の変化に常に気を配り、異変に気付いたら必要に応じて対処する。	A	・登園時に視診を行い、保育中も顔色や様子を観察し、体調の変化等に早く気付くように注意している。
	・学校感染症に罹った園児については登園許可書を提出してもらう	B	・学校感染症に感染した園児は、登園許可書を必ず再登園の際に提出してもらうが、保護者によっては徹底できてない方もいる。周知を引き続き行っていく。
	・防犯・監視カメラによる園児の安全管理	A	・園敷地内のカメラにより、不法侵入者や園児の怪我等の確認に役立っている。
	・災害時に備え、学期ごとに避難訓練、引取り訓練の実施と、非常時の園の対応を毎年保護者会で確認する	A	・消防署と連携した避難訓練を実施し、職員・園児ともに非常時の行動の確認をしている。保護者会では園の災害時の対応マニュアルを確認した。
5. 食育の充実と動植物への関心	・みんなで一緒に食べることの楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思える環境づくりをする。	A	・子どもたちがみんなで食べる楽しさや食事に興味を持てるよう、ハッピーランチを行い、異年齢児とも食事し関わる機会を設けている。
	・食べ物に対する感謝の心や親しみを感じられるよう野菜を育てたり食材に触れる機会を保育の中に取り入れる。	B	・きゅうりを栽培し、収穫して持ち帰った。園庭で育てたことにより、様子をいつも見ることができ、関心を深めた。実際に園内で調理はできないが、絵本などで見せて関心を持たせていきたい。
	・動物公園への遠足や、園庭の虫やカエルたちを通して、生き物への関心と愛情を持たせる。	A	・園外保育や園周辺の散歩で虫や動物と関わり、自然を大切にする気持ちを持たせた。カエルを捕まえると自分よりも低年齢の子に見せてあげたり、最後は自然へ帰してあげるなど、思いやりと優しさの気持ちを育んだ。
6. 保護者との連携	・保護者とのコミュニケーションを大切にし、個人面談等で家庭との相互理解や連携に努める。	A	・日常はなるべく各保護者へそれぞれの園児の良いところや園で出来るようになったことを伝えるようにしてコミュニケーションを図るようにしている。日々の出来事や保育の様子がより良く分かるよう、動画配信した。
	・保護者の行事の参加を通して、広い視野で集団生活や保育への理解を深めていただく。	A	・保育への相互理解を深めてもらうため、大きな行事のお手伝いをお願いした。また、先生体験は保護者の方から好評で、保育者としても勉強になったので、次年度も先生体験の機会を設けたい。
	・守秘義務の遵守	A	・職員に対して、幼稚園で知り得た園児や家庭の情報を口外しないよう徹底している。

IV. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	概ね達成することができたように感じる。しかしながら教職員の資質向上の点で、より良い保育のために努力が必要である。今後も常に自園を第三者の視点で見つめ、より良くしていく姿勢が大切だと考える。

V. 令和6年度に取り組む課題

1. 教育内容	・幼児の指導と保育活動	・一人一人の園児の個性を踏まえた上で、なるべく一方的にさせるだけの保育にならないように、子どもたちが主体的に関わり、「やってみたい」という気持ちを引き出せるように配慮する。
	・行事の充実	・行事ごとのねらいを理解した上で、子どもたちが興味・意欲を持って取り組めるようにする。 ・準備に十分な余裕をもって、子ども達に負担にならないようにしなくてはならない。
	・幼児のみとりと理解	・一律に押し付けるような保育をしない。一人一人をよく観察し、ペースに合わせた無理のない指導計画を立てる。子どもがのびのびと主体的に活動できるように配慮する。
	・保育環境づくりの工夫	・園庭環境や物など、子ども達が思わず関わりたくなるような遊びを通して学べる環境づくりに努める。
	・専門教育	・英語や体操、ダンスなどの正課に興味を持って参加できるようにする。
	・動物や植物への関心	・子どもたちが植物の生育に興味を持って観察したり、世話をできるようにする。 ・園周辺の環境を利用し、虫やカエルを捕まえたり、草花に触れたりする機会を持つ。
	・読み聞かせ	・絵本や紙芝居を読んだり、季節の歌をうたったりする時間を多く取り入れる。
	・絵画指導	・豊かな発想で絵画や作品ができるようにいろいろな体験を保育に取り入れ、観察する眼を養う。 ・職員が指示を出し過ぎず子どもたちが自発的に描けるように配慮する。
2. 教職員体制の充実	・教職員体制を充実させ連携を図る(幼稚園全体・学年ごと)	・ミーティングで教職員間の情報共有を密にし、連携を図っていく。幼稚園全体の問題を出し合い、解決に努める。また学年ごとに話し合い、見通しを持った指導計画を立てる。
	・連絡ミスをなくす	・保護者からの連絡は確実に職員間の申し送りを徹底する。 ・必ずメモを取り、後回しにせず忘れないうちに伝える。
3. 教職員としての資質向上	・保育研究と保育技術の向上	・子どもたちが楽しめる保育を行えるよう研究に努め、良かったことは職員間で共有し、更なる向上に努める。 ・外部の研修に積極的に参加し、新しい情報を取り入れることで、自身の保育観を見直す。
	・日々の振り返りと、反省と改善	・より良い保育を目指し、自分の不得意なことに対してより向上できるように、また、日々の反省をしつかりと行い、更に探求心を持つようにする。
	・苦手分野の向上	・教職員同士で良いことはお互いに学び、苦手なことは向上できるように努める。また、他の教員の保育の方法を積極的に学んだり、分からないことは先輩教員へアドバイスを求めたりする。
	・他の教職員からの学び・服装・身だしなみ	・保育者としての自覚を持ち、保護者から見て好感の持てる服装や髪型、先生らしい態度や言葉遣いを心掛ける。
4. 安全・衛生管理	・感染症対策と衛生面の管理	・保育室やトイレ、遊具などの掃除を日々きちんと行い清潔に保つ。 ・学校感染症の場合は再登園の際の登園許可書の提出を徹底する。
	・防犯や自然災害への対策	・地震等の自然災害や不審者が侵入したときの対処の方法について、教職員が普段から確認し合い、一人一人が実践できるよう心掛ける。また保護者会でも有事の対応を共有する。
	・安全点検票に基づく、定期的な安全点検	・安全点検票に基づいた安全点検を行い、園庭や園舎内で危険なところがないか、遊具の安全確認等、注意していく。
5. 食育の充実と動植物へのおもしろ	・食育への取り組み	・食べ物に対して感謝の心や親しみを感じることができるよう、野菜を育てたり、食材に触れたりする機会を保育の中にさらに取り入れていく。
	・環境づくり	・無理に食べさせることはせずに、みんなで一緒に食べることの喜びや、楽しさを感じさせ、自発的に食べたいと思えるような環境づくりをする。
	・野菜や花の栽培と芋掘り遠足	・きゅうりの栽培と収穫体験や芋掘り遠足を通して、食物への興味を促す。 ・ひまわり・朝顔等の花を育てて生育を観察し、植物を大切にすることを育てる。
	・生き物との触れ合いと思いやり	・園内の植物の手入れや動物公園への園外保育、園周辺での虫等の捕獲を通し、動植物へ対する優しい気持ちを持たせる。
6. 保護者との連携	・保護者対応	・日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にし、お子さんの園での様子やできるようになったことを見つけ、互いに成長の喜びを共有し合う。
	・保護者会や個人面談と保育参観	・保護者と園との相互理解のため、定期的に保護者会や個人面談等で園の様子を共有する。 ・園での子どもたちの様子や保育に対する理解を深めてもらうために保育参観を行う。
	・動画配信サービス	・コロナ禍で始めた動画配信を上手く活用し、子どもたちの様子を伝えていく。
	・行事への手伝い	・保護者の行事の手伝い等を通して園と家庭、保護者同士が親睦を深めることにより、子どもたちにとってより良い保育環境の構築につなげる。